

学校統廃合計画

学校整備検討委員会の経過

- 平成16年6月1日 馬頭町立学校整備検討委員会設置・諮問
- 平成17年2月15日 馬頭町立学校整備検討委員会から教育委員会に答申
- 平成17年3月31日 教育委員会で答申の内容を検討し町長に意見書と統合時期を明確にし提示
- 平成17年8月4日 町長から方針どおり決定の通知

統合の経過

旧馬頭町では、馬頭町中学校統廃合基本方針（平成5年9月13日）を決定し、概ね10年先を展望して未整備校5校について検討を進めてきました。

しかし、少子化が予想を超えるスピードで進み、今後も引き続きその傾向は免れない状況にあります。

そこで、望ましい環境整備、特に統廃合について検討をしていくため、平成16年6月1日に「馬頭町立学校整備検討委員会」を設置し、「今後の馬頭町立小中学校のあり方」について諮問しました。

検討委員会の経過

検討委員会は、町議会議員、自治会長、小・中学校PTA、幼稚園・保育所保護者、小・中学校校長、学識経験者で構成される29名です。

委員会では、平成16年6月から翌年2月までの間に6回の会議と学校の現状視察、学校統廃合の先進地視察、幼稚

園・保育所・小・中学校保護者を対象にアンケートを実施し、将来の動向、望ましい教育環境のあり方などを調査・研究しました。

適正規模の考え方

小規模校、大規模校にそれぞれメリット・デメリットがあり、児童の人間形成上の学習環境として効率的、効果的な教育活動を進める学校経営のうえで、学校規模の適正化を図る必要があります。

具体的には次のとおりです。

子どもたちの立場から

- ・集団による教育の実施により切磋琢磨の機会が増える。
- ・クラス替えを行うことにより、児童生徒の人間関係や集団内の役割分担の固定化を防ぐ。
- ・多様な関わりの中から、集団活動を通して児童生徒の社会性を高める。
- ・同一学年における学級間の交流や刺激し合うことにより活気が生まれる。

・集団の間で互いに競い合ったり協力し合ったりすることにより、自らの個性や能力を伸張させる。

・クラブ活動における選択の幅が広がり、児童生徒の個性・能力に応じた指導を受けることができる。

学校運営の立場から

- ・学年や教科担当の教員を確保し、指導体制が図れる。
- ・同一学年複数の教員による研究・研修が可能になる。
- ・部活動の指導にあたる教員確保が可能となる。
- ・校務分掌を複数で分担することができ、学校運営組織の効果的な編成ができる。
- ・児童生徒の安全確保や不測の事態に対応できる。

答申の内容

答申は、「小学校については複式学級の解消」「中学校については教科担任制を考慮した複数学級確保」を図ることが最も重要であるとの意見で一致し、内容は次の6項目です。



学校統廃合説明会（和見地区）

- ①小学校は3校（将来は2校）が適当である。
- ②武茂小・健武小・和見小を馬頭小へ統合すべきである。
- ③大内小・谷川小・大山田小の3校を統合し、統合小学校は、馬頭東中を改修して使用すべきである。
- ④馬頭西小は統合後間もないので児童数の推移を見て馬頭小へ統合すべきである。
- ⑤馬頭東中は馬頭中へ統合すべきである。
- ⑥統廃合は早期に行うこととし、その順序は年次計画によ

り、初めに中学校を、次に小学校を行うべきである。

学校統合計画

町は、学校整備検討委員会からの答申・教育委員会からの意見書、更には今後の児童生徒の推移を考慮して、学校統廃合年次計画を次のように定めました。

年次	H 19	H 20	H 21
武茂小	廃校	馬頭小へ	
健武小	廃校		
和見小	廃校		
大内小		廃校	統廃合
谷川小		廃校	
大山田小		廃校	
馬頭東中	廃校	馬頭中へ	

統合後の課題 地域と十分協議

通学の安全確保、通学の方法・

手段

スクールバスの導入、町営

バスの活用

学校整備の充実、特別教室の

整備

コンピュータ室、理科室整

備、教材教具の充実

学校と地域との関わり

校内における地域の人々による指導、安全安心な学校づくり

廃校の跡地利用、町づくりの観点から活用

町民のニーズを踏まえ、多様な活用方法を検討

今後の進め方

平成18年10月18日から11月1日にかけて、学校整備検討委員会の答申及び教育委員会がまとめた意見書に基づき、町は学校整備の基本方針についての説明会を8地区で実施しました。その結果、215名の参加があり、各地区とも活発な意見交換が行われました。

意見を要約すると「現状の児童生徒数の減少を考えると、学校の適正規模化と適正配置はやむを得ない」「学校の統廃合により通学距離が遠くなるため、子どもたちの通学時の安全確保を最優先課題として欲しい」という意見がほとんどです。

今後、統合する学校の児童生徒の負担の軽減を図るための取り組みと、町が示した統合時期について、地域と更なる話し合いを行い、理解と協力が得られるよう合意形成に

努めて参ります。



学校統廃合説明会（馬頭地区）

那珂川町立小学校及び中学校年度別児童生徒数の推移

H18.5.1 現在

【小学校】

年度 学校名	18		19		20		21		22		23		24	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
武茂小	48	5	51	4	43	4	37	4	36	4	30	4	29	3
馬頭小	325	12	316	12	304	12	312	13	290	13	280	12	266	12
健武小	49	4	45	4	44	5	46	4	39	4	37	4	33	3
和見小	32	4	32	4	34	4	31	3	33	3	30	4	27	3
大内小	48	5	45	4	32	3	28	3	26	3	22	3	21	3
谷川小	33	4	26	3	31	4	36	4	35	4	34	4	33	3
大山田小	61	5	54	5	50	5	51	4	51	5	53	4	41	4
馬頭西小	87	6	85	6	80	6	76	6	69	6	70	6	60	6
小川小	252	10	245	9	233	8	220	7	206	7	197	7	196	7
薬利小	52	6	50	5	47	5	49	4	38	4	36	4	43	4
小川南小	73	6	79	6	76	6	74	6	69	6	67	6	59	5
計	1,060	67	1,028	62	974	62	960	58	892	59	856	58	808	53

注：学級数で6未満は複式学級が生じています。

注：複式学級は、2つの学年が1つの教室で1人の教員により学習する形です。

【中学校】

年度 学校名	18		19		20		21		22		23		24	
	生徒数	学級数												
馬頭中	304	12	287	11	307	11	272	10	277	10	257	10	269	10
馬頭東中	82	3	88	3	95	3	81	3	65	3	50	3	61	3
小川中	240	10	227	9	225	8	203	7	202	7	185	7	174	7
計	626	25	602	23	627	22	556	20	544	20	492	20	504	20